

災害時の歯科保健医療支援 初動において、行政歯科職が救った命 ～ 井下英二先生語録と共に ～ 太田 秀人, 歯科医師

筑紫歯科医師会医療管理担当理事・(医)おおた歯科クリニック

東日本大震災(2011年)の後に知り合ったある行政歯科職の方は「外部支援なのに、目の前の歯科問題を抱えた被災者に対して、何もできない自分が空しかった」と嘆いていた。

熊本地震(2016年)の直後にもまた、「歯科職なのに歯科以外の仕事に忙殺され、目の前の被災者の役に立てないのが悔しい」という声を聞いた。

しかし南阿蘇地区では、行政支援チームの井下先生が「歯科ニーズあり。あとはヨロシク！」とバトンを繋ぎ、私たち外部歯科支援チームは現地歯科コーディネーターの指揮下で、JMAT、JDA-DAT、JRATなどと多職種連携して口腔機能支援活動(感染症対策やフレイル対策、食支援を含む)を展開した。

その後の九州北部豪雨(2017年)では、私は福岡県歯の災害歯科コーディネーター(当時)として未曾有の豪雨災害への対応を迫られたが、そこでも井下語録は道標の一つとなった。

初動を制する者は、災害を制する。

今回は私が経験した災害時の歯科保健医療支援の初動対応などを、井下語録と共に振り返ってみたい。



- 略歴:1993年 長崎大学歯学部 卒業。2009年 おおた歯科クリニック 開業。2015年 筑紫歯科医師会 医療管理理事。2021年 九州地区連合歯科医師会 災害対策特別委員会 委員。2022年 長崎大学歯学部 非常勤講師
- 共著・執筆:・①災害時の歯科保健医療対策 連携と標準化に向けて、一世出版,2015、②災害時の経験を活かすためには、医歯薬出版株式会社,歯界展望1月号,2019、③大規模災害時の歯科的コーディネート～最も重要なことは?～,日本歯科医師会雑誌,2020

参加無料!

先着90名

主催:日本災害時公衆衛生歯科研究会
問合せ:jsdphd-admin@umin.org

申込(先着) 1月9日まで
<https://onl.sc/gCR8BeC>

